

## アメリカの幼児教育

### アメリカに観る

坂西志保

#### ○エール大學の兒童發育研究所

ミシガン大學の心理學科に教へて居た私の友人が、エール大學の「兒童發育研究所」に勤務する様になつたので、私は二回ばかり彼を訪ねて、仕事を見せて貰つた事がある、日あたりのよい、明るい室に四才の女の子や男の子が十名ばかり遊んで居た。參觀人は室に入らず、段を上つて、防音装置のある舞臺裏とでもいひたい處に入つて行く。こゝから子供達を觀察出来るが、彼等はそれを全々知らない。片方だけしか見えないガラス張りになつてゐる。時を記録する機械や、寫眞機、撮映機等も使へる様になり、教師の解説を聞いたたり、質問を出して論じ合ふ事も出来る。とにかく子供達は自分達の行動を人が見て居るとは考へないから、至極自然に振舞つて居る。序に、こちらの言ふ事は子供に聴えないが、子供の

いふ事はみんな一種の擴聲機でこの舞臺裏に入つて来る。私が初めて訪問した日は、子供達は白兎を一定貰つて、これをどのやうにして生活をするか、といふ子供達にとつては重大問題を決議する日であつた。數日に亘つて兎はどんな物を食べるか、何時眠るか、どんな箱に入るか研究したのであるが、本物が室に現はれると、みんなびつくりした。誰がどんな態度をとるか、研究生が記録をとつて居る。一人一人兎にさはつて見る事になると、ここにも色々な特徴が表はれる。背をなでる子。耳を引張りたがる子、尻込みしてどうしても手を出さぬ子、二三人かたまつて名前を相談するもの、全體の指導者格で采配を振るものも居る。とにかく新しい問題に對して彼等がどの様に考へ、どんな態度をとつたかが一應解ると、後の指導は容易である。臆病な子はそれをどうしたら克服出来るか。しかもそれは何に因するか。單に動物に親し

みがない爲かも知れない。或は觸覺が鋭敏で、毛にさはる事がおそろしいのかも知れない。引込み勝ちな子を、なるだけ引張り出し、ポス的な態度に出る子には協力一致して、遊ぶ事を教へる様にする。とにかくエル大學の研究は兒童研究に新しい方向を興へた。研究所の作成による『幼兒との生活』と題する映畫が日本に來るのを私は待つて居る。

## ○アメリカのナーセリー

### スクール

アメリカでは、最近獨逸語のキンダーガーデンと云ふ語よりも、大抵ナーセリー、スクール即ち保育學校と云ふのが多い。昔の訓練とか規則、正しい遊戯とか運動とかのはりに、兒童の個性を尊重して、各自の特徴を發達させ、よい社會人をつくるのを目的として居る。私はこの方面の専門家ではないからあまりくわしい事は知らないが、大學附屬の保育所を見て感じた事は、子供達が自分の義務、責任を盡して、何か人の爲にしようと、努力して居る事である。

どんな社會に育つたかによつて相當違ふけれども、三才から五才位迄はかなり自己中心で、他の存在は認めて居ない。大人のある事に手を出したが、褒められる事が非常に嬉しい。愛されるといふ事は重大な關心事で、相當の嫉妬心もある。物を獨占する傾向が強い。模倣はするが、また自發的に考へて、新しい境地を開拓すると云ふ氣持はすくない。言ひ

換ればこの年齢の子供は未成品で、智能の働はまだ表れて居ない。

この幼い未成品をどう養育して行くか。現在一番成功して居るのは、やはり進歩的教育法ではなからうか。何をするか、したいか、暗示を興へ、問題が解決した時には、それが子供の考へであるやうに持つて行くのである。積木で家を建てて居る子供、大工道具で犬小屋を作つて居るもの、人形を寝かせて居るもの等、みんな自分の好きな事をしてゐるが、今度各自の遊びを綜合して、何か組織だつたものにする事である。サーカスが町に來た。先生はサーカスを見た子供達の報告をきく、質問を出す。その中に見た者も見ないものも、自分達のサーカスを作る事にする。切符のつくり方、動物、舞臺、道化役者、藝人等みんな子供は考案する。アメリカの幼兒教育は動的で、具體的である。

併し、この時代の子供に最も重要なのは、嫉である。勿論これは家庭が主であつて、保育所はそれを補足するにすぎないが、中流以下の子供を取扱つてゐる處では、嫉に重きをおいてゐる。お互同志が相手を尊敬し、相手の權利を尊重する事、お互に譲り合ふのであるが、これは子供にとつては容易ではない。十時のミルクとクラツカー、晝食、晝寝、屋外の運動にしても、最初はみんな我先にと、いきりたつ。男の子は「レディ・ファスト」を先づ學び、女の子は自分より年下のもの、弱い者をいたはり、保護するやう、しこまれる。子供の與論の制裁も相當影響がある。

晝寢する前に顔と手を洗ひ、齒を磨く。男の子も、女の子も髪をとかず。洗面所、便所の使用も後に来る者が困らない様清潔にする。鼻を指でほじくつてゐる子供は、ハンカチを使用するのを教へられる。食事の折の禮儀作法も自然に習ふ様になる。こんな事は、些細な事と思はれるかも知れないが、今日の日本人の大人でもこの様な點に無關心な者が多く、恥を公にさらしてゐる處を見ると、やはり、アメリカの躰は重大だと思ふ。

コロムビア大學の中ある師範學校で、保育所にゐた子供と

## アメリカの幼稚園の見學

楽しい園、嬉々とした無邪氣な子供達が安心して仲よく生活して居る幼稚園!! 此處には、國境も人種の差別もなく、自由と平和と愛と喜びにみち將來への希望そのものゝやうでした。

幼稚園を見學してゐる時だけは、自分が外國人で米國に在ると云ふ事をすっかり忘れて、楽しい有意義な一日を過したものでした。富有な家庭の子女の集まつた幼稚園も、比較的貧しい家の子女達の爲の幼稚園も、一樣に家庭的な零團氣にみち、清潔で美しい色調、幼い子供達が獨立して個々の生活

家庭から眞直ぐ小學校に行つた子供とを廣く調査した結果、前者は物事の理解が早く、なんでも一應やつて見やうといふ好奇心が發達し、獨立心が強い反面には、また努力的である、とわかつた。印象の強い時代に同年齡の子供と一日數時間生活し、組織だつた遊び方をやるだけで、これだけの効果があるとすれば、保育所はその使命を立派に果たした事になる。アメリカの教育の理想は、よい社會人、よい市民をつくる事であるが、やはりこの訓練は早くから始めなければならぬ事がわかる。

## 功 刀 よ し 子

を學びつゝ、生活しつゝ、半日を樂しく、機敏に、活發に過して居ました。保育時間は、各國の社會的環境、目的により長短の差はありましたが、衛生、清潔、榮養、保健等は、いづれも等しく細心の注意が拂はれてをりました。

朝八時半頃、看護婦又は經驗ある保母より身體検査を受け、附添つて來た者にその結果を報告し、附添は昨日歸宅してから登園迄の家庭での健康状態に異状があれば(夜泣き、不眠、食欲がない、恐怖、怒り等)を報告し今日の保育の參考として居ました。傳染性の疾患のない健康な者は新鮮な空